

平成24年9月24日

吉川中学校保護者の皆様へ

豊能町立吉川中学校
校長 新谷 芳宏

平成24年度 「全国学力学習状況調査」の結果について

仲秋の候、保護者の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育活動にご理解ご支援賜り誠にありがとうございます。

さて、昨年度の全国学力学習状況調査は東日本大震災のため中止となっていました。今年度は4月に抽出調査として実施されました。本校は、今年の抽出校として指定され、3年生が参加をしたところです。今回の調査では、国語、数学に加えて、理科も実施されました。8月下旬に今回の結果データが送付され、校内で実施教科及び学校全体の分析をし、以下の通りの結果でありましたのでお知らせいたします。

今回の調査結果の概要は、国語・数学・理科における本校の正答率では三教科とも全国と比べ概ね良好でした。ただ、以前の調査と同様に二極化の傾向は若干見られます。学習状況調査では、生活・学習とも同じく概ね良好でした。詳細は、以下の通りです。

I. 学力調査結果の概要

(1) 国語

<正答率が全国と比較してかなり上回っている問題>

- A・比喩という言葉と結びつけて、表現の仕方を理解する。
 - ・話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使う。
 - ・漢字を書く。(地域の人をショウタイする。)
 - ・漢字を読む。(考えに相違がある。)
 - ・はがきの書き方を理解して書く。

<正答率が全国と比較してやや下回っている問題>

- A・漢字を書く。(鉛筆をカりる。)
 - ・抽象的な概念を表す語句について理解する。
- B・相手の発言を注意して聞き、自分の考え方を書く。
 - ・効果的に伝わるように、内容や表現の仕方を工夫して書く。

<考察>

全国と比べて少し下回っている問題以外は、全国と比べてかなり上回っている。

特にAの問題(主として知識)は正答率が高い。日頃の授業でも、集中して取り組んでいる。さらに、国語学習の理解度・意欲・関心が高いことが、「生徒質問」からも読み取れ、家庭での学習時間もかなり取れていることが、この結果につながっているであろう。

一方、Bの問題(主として活用)に、本校生徒は苦手意識が若干あるようだが、それでも、全体としては全国より上回っている。ただ、「生徒質問」から、異年齢とのコミュニケーションの機会が少ない(例:近所の人へのあいさつが少ない。異年齢の友達と遊んだり勉強したりすることが少ない。)ことが読み取れるが、そのことと関わりがあるのではないかという考察も成り立つ。

(2) 数 学

<正答率が全国と比較してかなり上回っている問題>

- ・簡単な比例式を解くことができる。
- ・比例のグラフ上にある点の x 座標と y 座標の値の組が、その式を満たしていることを理解している。
- ・反比例の関係を表すグラフの特徴を理解している。
- ・前の試行が次の試行に影響しない場面において、「同様に確からしい」ことの意味を理解している。
- ・事柄が成り立つ理由を示された方針に基づいて説明することができる。
- ・筋道を立てて考え、証明することができる。
- ・問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。

<正答率が全国と比較して下回っている問題>

- ・2つの自然数の最小公倍数を求めることができる。
- ・回転体がどのように構成されるかを理解している。
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ・「木の高さの求め方」を事象に即して解釈することができる。

<考察>

ほとんどの項目についてよく理解できているので、正答率も全国の平均を上回っている。計算問題は正答率も高くおおむね良好な結果が出ており、特に、比例、反比例のグラフの特徴に関する正答率が高く、良好な結果が出ている。このことから、数学的な表現・処理をする技能がかなり高まっていると考えられる。また、図形に関する問題でも正答率がかなり上回っているのでおおむね良好であると言える。資料の処理に関する説明には課題があるものの、式による説明や図形の証明など記述式による問題の正答率が全国に比べかなり上回っている。

以上のことから、数量、図形などについての基礎的な知識と技能はかなり習得できており、またそのことを活用しながら数学的な見方や考え方を身につけ、論理的に考察することができていると考えられる。

(3) 理科

<正答率が全国と比較してかなり上回っている問題>

- ・水草の働きと発生する気体の名称(知識・理解)。
- ・カエルの特徴や成長に応じて飼育の環境を整えた理由(思考・表現)。
- ・電流計の図から電流の大きさを読みとる(技能)。
- ・消費電力量を減らすために最も効果のある場所を選ぶ(思考・表現)。
- ・実験結果から浮力の大きさを求める(知識・理解)。

<正答率が全国と比較してやや下回っている問題>

- ・省エネ効果を比較する実験を考えるときに、必要な条件を選ぶ(思考・表現)
- ・地層のつながりを考察し、地層の傾いている方向を選ぶ(思考・表現)
- ・ローム層と偏西風から、火山・観察地・中学校の位置関係を考える(思考・表現)
- ・食塩水を調べる実験の方法とその結果を選ぶ(思考・表現)

Aの問題（主として知識）の正答率がBの問題（主として活用）の正答率を上回っていることから、知識・理解のところで吉中生はよく勉強するので身につけていると思われる。電流系の読み取りは、2年生で行った数多くの実験で、電流計を実際に読み取ってきたし、実技テストも行ってきたために技能が身につけていると思われる。

一方全国平均を下回った設問はどれも思考・表現のところのやや難しめの問題である。知識はもっていても、科学的に応用的に思考するところが吉中生は弱いようである。科学の一番大切で、おもしろいところがなのだが…。

「生徒質問」で見ると、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答した生徒の割合が、全国と比べてかなり大きくなっていて、自然豊かな豊能町の地域性が出ている。また、「理科が好き」、「疑問を持ち質問したり調べる」、「将来理系の職業に就きたい」、「観察や実験が好き」、「ものをつくるのが好き」、という生徒が全国と比べて多い。一方、「考えや考察を発表している」「結果をもとに考察している」という回答した生徒の割合は、全国平均より低くなっている。実験観察はおもしろいから好きだけれど、考察したり発表したりするのは苦手の生徒が結構多いようである。

豊かな自然環境の中で育った吉中生は実験・観察を中心とした理科は好きで、まじめに授業で習った知識はしっかり身につけている。実験・観察を数多くさせながら、結果から考察したり、考えを発表させる場をもっと工夫して作っていかねばいけない。

II. 学習状況等についての生徒質問内容結果の概要

- 1) 吉中生の90%以上は、「朝食」をとり、「起床時間」は一定している。43%の生徒が睡眠時間は7時間未満と答えている（全国は37%）。
- 2) 吉中生の80%以上は「家族と夕食」をとっており（全国は80%）、75%の生徒が「学校の出来事について話をしている」と答えている（全国は65%）。また、73%の生徒が「新聞・ニュースに関心がある」と答えている（全国は64%）。
- 3) 吉中生の54%が「学校外の勉強時間」を2時間以上または、3時間以上勉強していると答えている（全国35%）。さらに53%の生徒が「土日の勉強時間」を2時間以上、3時間以上または、4時間以上勉強していると答えている（全国39%）。48%の生徒が「予習」をしており（全国は29%）、「復習」をしている生徒は34%である（全国は45%）。
- 4) 吉中生は「テレビ・ビデオ・DVD視聴時間」「ゲーム時間」は全国と比較しても少ない傾向にある。51%の生徒は「携帯電話」を持っていないと答えている（全国38%）。
- 5) あいさつの設問では、吉中生の22%が、できていないと答えている。（全国は12%）
- 6) 吉中生は「問題を最後まで答えようと努力しましたか」の設問に、「国語」は80%の生徒が努力をしたと答えている（全国は70%）。「数学」は52%の生徒が努力をしたと答えている（全国は45%）。

「理科」は48%の生徒が努力をしたと答えている（全国は46%）。

7) 吉中生の国語・数学・理科に対する意識

「国語の勉強は好きですか」 63%（全国は58%）

「数学の勉強は好きですか」 51%（全国は51%）

「理科の勉強は好きですか」 59%（全国は61%）

「国語の勉強は大切だと思いますか」 91%（全国は90%）

「数学の勉強は大切だと思いますか」 84%（全国は82%）

「理科の勉強は大切だと思いますか」 66%（全国は68%）

「国語の授業の内容は良くわかりますか」 82%（全国は71%）

「数学の授業の内容は良くわかりますか」 68%（全国は64%）

「理科の授業の内容は良くわかりますか」 65%（全国は64%）

<考察>

以上から吉中生の生活状況の傾向は、次のようなことが言える。

- ①規則正しい生活を送る生徒が多いが、睡眠不足気味の者が多い傾向にある。ただ、あいさつができていない生徒の増加がみられる。
- ②家族間で会話する生徒が多く、学校の出来事をよく話している。また、「新聞・ニュースに関心がある」割合が多いことから、家族間の会話でこのことについても会話をしている事が推測できる。
- ③学校外で平日、土日の時間を勉強に費やしている生徒が多い。勉強の中身は、復習より、予習に重点を置いている傾向が強い。
- ④分からない問題に対して、最後まであきらめず頑張る傾向にある。特に「国語」はその傾向が強い。
- ⑤国語・数学・理科に対する意識は全国とほぼ同じ傾向にある。
- ⑥「テレビ等の視聴時間」や「ゲーム時間」が少なく、「携帯電話の所持率」が低い。

生活・学習規律、学習習慣等の質問で、以前の調査と同様に安定的な力を維持している。このことが、学力向上に大きく寄与していると思われる。昨年度の大阪府学力学習状況調査の結果分析でも同様な点を示したが、その一つは、家庭おけるしっかりとした生活習慣を基盤として、熱心な子育て環境があることが数値によく出ている。もうひとつは、学校におけるあいさつや清掃の励行、静かで集中力のある学習環境の良さ（朝の読書、授業態度等）、行事に集中する真摯な態度が顕著に見受けられる。これらの態度・姿勢が学力向上の基盤となっていると認識している。その基盤の上に、本来のそれぞれの教科学習の力をつけていきたい。家庭と学校が、同様の認識を共有し、継続して努力していくことが重要であると感じている。

今後とも、生活・学習にける良き習慣と良き規律について全教職員がしっかり認識し、重要な柱として取り組んでいきたい。

Ⅲ. まとめ

*今年度の全国学力調査において、国語・数学・基礎学力においてまずまずの成果が継続して見られる。また、理科は初めて実施されたが、国語・数学同様におおむね良好な結果となった。特に、数学においてはB（主として活用）問題では、全国よりかなり

高い正答率であった。

*また、学習状況調査では、本校生徒は、規則正しい生活を送る生徒が多いが、睡眠不足気味の者が多い傾向にある。家族間で会話する生徒が多く、学校の出来事をよく話している。家庭学習も予習に重点を置いている生徒も多い。分からない問題に対して、最後まであきらめず頑張る。全国的に見て、「テレビ等の視聴時間」や「ゲーム時間」が少なく、「携帯電話の所持率」が低い。生活学習面でも概ね良好であった。

本校では、数年間変わらず重点目標としている「よい習慣（あいさつ、ルールを守る、自学自習、読書）を身につける」は、義務教育後期の人間形成にとって大切な事柄であると同時に、学力向上にとっても大切な基盤であることは、文部科学省や大阪府教育委員会の学習状況調査の分析からもわかる。本校では、「よい習慣を身につける」という目標は、今後とも変わらずに重要な柱として位置づけていきたい。

*昨年度から、学力向上プランを策定し、学力向上に向けて課題や方策、担当者、実施期日、検証等を明確にして取り組んでいる。今回の大阪府教育委員会・豊能町教育委員会の分析を踏まえて、自らの課題とするところを再度見直し、本校の学力についてさらなる向上を目指していきたい。

*本校の今年度の学力向上策の主なものを示す。

- 授業時数の確保（8月末に全学年15時間授業実施。2学期開始が8月28日。）
- 授業研究の実施（全教職員授業研修の実施、事前研究会の複数開催と外部講師の招聘、ST法を活用）。その他、町教科教育研究会の授業研究も積極的に行う。
- 授業研究の実施におけるテーマ「自らの考えを表現できる力を育てるために何が必要か」を設定。
- 習熟度別授業の実施（数学・英語を中心に、年間指導計画作成と全授業時数30%以上の実施）。英語については、定量的検証を行う。
- ICTを活用した授業展開を進める（特に、英語・理科・技術を中心に）。
- 理科における実験観察を重視した授業の展開。
- 道徳の公開授業の実施（11月上旬 PTA授業参観時、全クラス公開授業とする）
- 自学自習力の育成（放課後学び舎事業＝テスト1週間前、火・木週2回実施習。熟度別プリントの活用）、定期テスト1週間前学習計画表を配布。
- 学年毎、補習の実施（定期テスト前、長期休業期間）。
- 朝の読書の継続実施。落ち着いた読書環境の設定。「おすすめの一冊」の継続。全員参加の校内読書感想文コンクール実施。等々

<新たに>

- ・二極化傾向について、生徒の学力と学習習慣、学習規律の関係を見て、学力向上の手立てを検討し、具体的な取り組みを進めていく。
- ・習熟度別授業の定量的検証をシステム化に繋げていく。
- ・学習状況調査の結果について、小中が情報を共有し、吉川中学校区の長所・課題点などを整理し、4校が協力して学習規律・学力向上に取り組む。
- ・理科教育における実験・観察の授業重視や考える授業の取り組みをさらに進める。